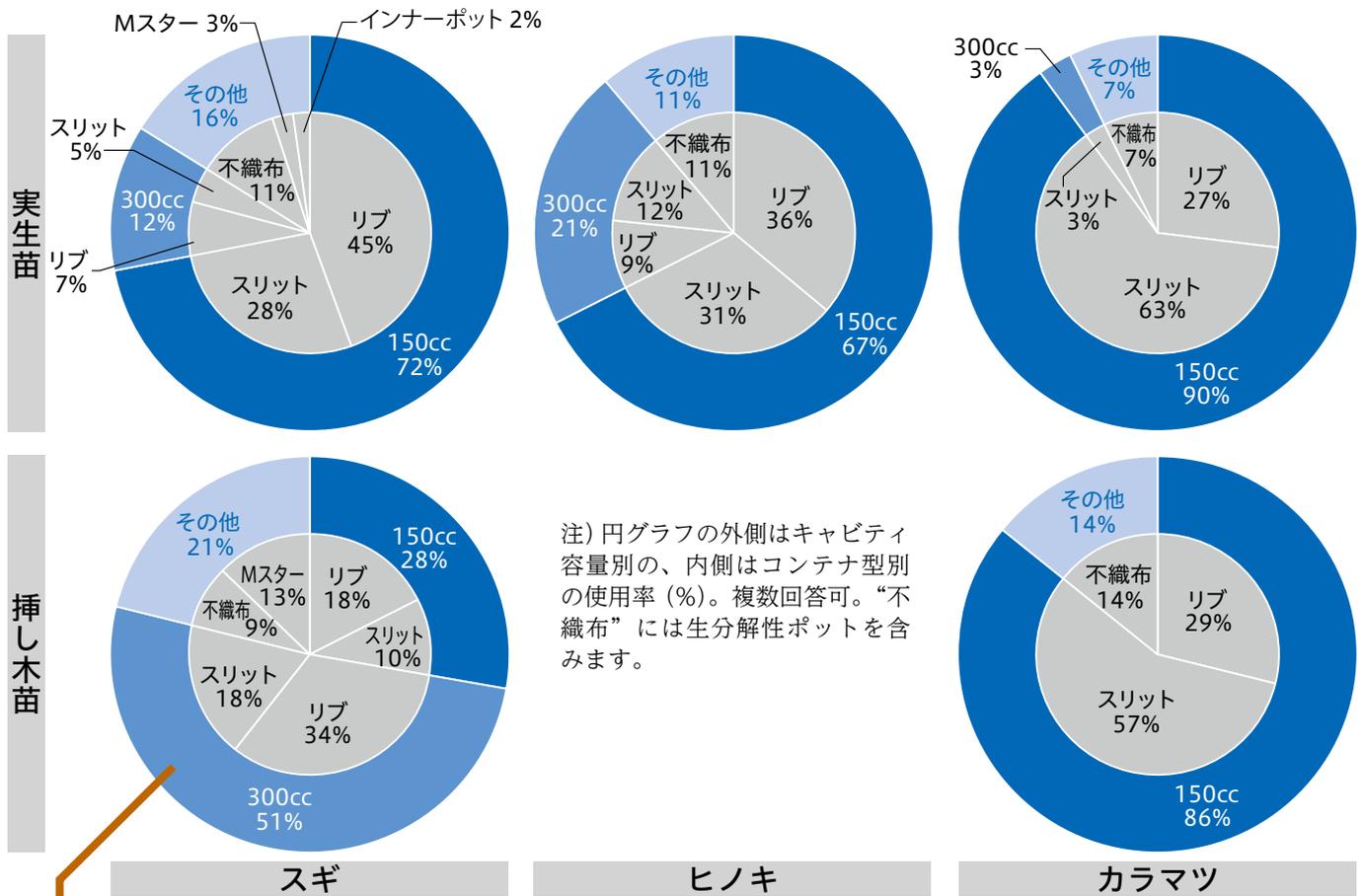




## ポイント

キャビティ容量 150 cc が主流

### 各樹種のコンテナ型の使用率



注) 円グラフの外側はキャビティ容量別の、内側はコンテナ型別の使用率 (%)。複数回答可。“不織布”には生分解性ポットを含みます。

スギではリブ型コンテナが多く使用されていました。スリット型よりもリブ型のコンテナの普及が先行した結果と考えられます。

スギ挿し木コンテナ苗は根鉢容量300ccの使用が多く見られました(主に九州地方)。

ヒノキはリブ型とスリット型コンテナの使用率がおおよそ半々、カラマツではスリット型コンテナで使用率が高くなりました。

ヒノキはスギよりも乾燥気味の方が生育がよいとされていること、カラマツでは下枝の枯れ上がりや過湿の影響を避けるために、スリット型コンテナの使用が多かったと考えられます。

### コンテナの設置先

網棚	棒棚	ブロック	地面	波板
32%	26%	24%	17%	1%

注) 複数回答可。「網棚」にはトレイ、コンテナ、育苗箱、育苗トレイ、パレット、空ケース、ベンチ、エキスパンドメタル、メタルバンド、ワイヤーメッシュを含む。「棒棚」には塩ビパイプおよび鉄パイプを含みます。

トレイや育苗箱のような網状の既存の資材の上にコンテナを置くケースが最も多くなっていました。

棒に懸架して設置する生産者は全体の26%でした。